

令和4年度  
事業報告書  
(案)

自 令和 4年 4月 1日  
至 令和 5年 3月 31日

社会福祉法人 空知の風

## 目次

法人事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・	3 ページ
たのしいどう事業報告・・・・・・・・・・	16 ページ
きっちんどう事業報告・・・・・・・・・・	27 ページ
あかるいどう事業報告・・・・・・・・・・	35 ページ
わくわくどう事業報告・・・・・・・・・・	44 ページ
歩～夢 事業報告・・・・・・・・・・	52 ページ
楽らく事業報告・・・・・・・・・・	60 ページ

## 令和4年度 法人事業報告

◇はじめに

### ～令和4年度事業の総括～

令和4年度は、法人設立10周年の節目であり、法人としても様々な記念事業を行ないました。新型コロナウイルス感染症によって人が集まるイベントが制限される中、安全対策を講じて「10周年を祝う会」を開催し、利用者、役員、職員でささやかながら10年の節目を祝うことができました。また、設立からのあゆみを振り返る10周年記念誌「一笑健明」を作成し、関係各所に配ることができました。

かねてから懸案事項だった老朽建物の更新については、古い賃貸物件を使用していた「あかるいどう」を、築年数が浅くてバリアフリーの構造の中古クリニックを購入取得して移転し、新規開設を行ないました。今後の高齢化や重度障がいへの支援の充実が見込まれます。

一方、戦争などによる世界情勢に伴う物価の高騰や水道光熱費の高騰、コロナ対策費用の増大、利用者の退所などで、経営・管理はやや苦心した面がありました。特に利用者の減少については新規参入事業者の増加で利用者獲得活動が激化しており、現利用者の満足度の向上や当法人の魅力の発信などに一層取り組む必要があります。

令和4年度の重点目標として掲げていた事項としては、

#### 1. 法人設立10周年記念事業の実施

- 利用者、ご家族、役員、職員とともにお祝いをし、未来への気持ちを新たにしようとするようなイベントの実施。
- 10年記念誌を刊行し、記録として後世に残す。
- その他、地域や協力団体への感謝を込めた記念品等の製造を行なう。

#### 2. 事業の再編と施設の整備

- バリアフリー環境が必要な利用者が安心して活動できるように、取得した旧クリニックの建物を改修・整備して生活介護事業所として老朽した建物から移転・開所し、併せて法人全体で能力やニーズに見合った事業に再編を行なう。
- 新規就労事業を創出し、働く意欲や工賃が向上する環境を作る。
- 重度や高齢の方も暮らしやすい住環境の整備に向けて土地の取得や設計などの具体的な動きを行なう。

### 3. 感染症対策と事業継続計画の強化

- 感染症対策の継続と強化をすることで、利用率の維持を目指す。
- 職員の連携強化や新規採用を行ない、支援体制を維持できるように努める。
- 感染症についてのガイドラインを更新し、感染者が出たときでも法人の機能が継続できるように体制強化する。

### 4. 地域公益事業の実施

- 地域の活動への協力。
  - ・地域イベントへの協力。
  - ・除雪協力。
  - ・他の社会福祉法人や企業・団体との連携など。

以上の4つを掲げておりました。年間の総括としましては、

1つ目の**法人設立10周年記念事業の実施**については、前述の通り利用者、役員、職員で7月に屋外行事として10周年を祝う会を開催しました。また、記念誌「一笑健明」を作成しています。

2つ目の**事業の再編と施設の整備**については、今後の高齢化や重度障がいの支援のために取得したバリアフリー構造のクリニックに「あかるいどう」を移転し、生活介護事業所として再編しました。また、居住でもバリアフリーの環境が必要となることから、土地の取得に向けて調査、見学を行なっております。

3つ目の**感染症対策と事業継続計画の強化**については、引き続き基本的な感染予防（マスク、手洗い、消毒）を徹底して取り組みました。職員、利用者へのワクチン接種についても可能な限り推奨をしています。散発的に感染する方はいましたが、集団感染には至らず、重症化する方もなく、順次復帰をされております。

4つ目の**地域公益事業の実施**については、感染拡大防止の観点から大規模なイベントを企画することはできませんでしたが、地域から協力の要請があった市内のイベントには様々な形で参加をしました。また、岩見沢市は今年度も豪雪により市民生活に大きな影響を及ぼしましたが、当法人の重機及び人員で近隣町内の除雪などにも協力し、大きな事故やけがなく対応しております。



## ■役員会運営

令和4年度は理事会を計4回開催しました。

開催された理事会では、前年度から継続して計画していた「あかるいどう」の土地及び建物の購入について議決を行ない、7月からの移転と、それに伴う設備工事や備品購入等について必要な議決を行ないました。

「あかるいどう」の移転に際しては、7月1日に利用者、職員でささやかな開式を行ない、テープカットなどのセレモニーを行なっております。

ここ数年の夏場は猛暑になることが多く、特に「たのしいどう」の各作業室と「歩～夢」の各住居はエアコンが無く、対策が必要であったため、理事会においてその整備について議決を行ないました。

また、令和4年は法人設立10周年の節目の年であることから、前年度から継続して10周年記念事業を協議してまいりました。7月17日に利用者、職員、役員で「10周年を祝う会」を開催することを議決し、滞りなく実施しております。また、設立から10年間の歩みをまとめた記念誌「一笑健明」を作成し、関係各所への配布をいたしました。

公益財団法人日本財団様の車両助成金への応募と当選後の諸手続きについても協議、議決を行ない、令和5年3月29日に送迎車両の日産セレナ8人乗りが納車されました。



その他の法人運営に係る理事会運営についても予算執行や各議案について活発かつ慎重な審議を行ない、事業運営を滞りなく実施する事が出来ました。なお、入札等の案件は発生していません。

評議員会は定時評議員会のみ1回の開催でした。「あかるいどう」の土地建物の購入に伴って、定款の基本財産の条項が加わるため、定款変更の協議を行ない、議決をしています。事業報告や決算の承認、福祉充実残額の計算結果の確認等が行なわれました。

監事監査については、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、実務上の改善事項について助言を頂き理事会で報告をしていただいております。

その他、社会福祉法人会計に長けた会計士事務所による外部監査も継続しており、法令に基づいた適切な会計処理となるように点検を行なっております。

○理事会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況	
			理事	監事
第1回 理事会	令和4年4月12日 (みなしによる) 決議の省略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たのしいどうエアコン設置工事について</li> <li>・グループホーム住居のエアコン設置について</li> <li>・エアコン設置のリース契約について</li> </ul>	6	2
第2回 理事会	令和4年5月28日(土) 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度事業報告について</li> <li>・令和3年度決算について</li> <li>・福祉充実残額の計算結果について</li> <li>・決算監事監査報告</li> <li>・定款の変更について</li> </ul>	6	2
第3回 理事会	令和4年12月26日(月) 16時00分～17時30分 岩見沢平安閣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本財団福祉車両助成金の交付について</li> <li>・補正予算の承認</li> <li>・虐待防止の取り組み強化について</li> </ul>	6	2
第4回 理事会	令和5年3月20日(土) 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補正予算の承認</li> <li>・令和5年度事業計画の承認</li> <li>・不動産取得について</li> <li>・令和5年度予算の承認</li> <li>・新規グループホーム開設の動きについて</li> <li>・法人と役員を取引について</li> </ul>	6	2



理事及び監事、各事業所課長



評議員

○評議員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			評議員	理事	監事
定時	令和4年6月18日（土） 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	・ 令和3年度決算の承認 ・ 令和3年度福祉充実残額の計算の承認 ・ 決算監事監査報告 ・ 定款の変更について	8	3	2

■監査等の状況について

○監事監査の実施状況について

	日時	対象期間	担当監事	
			業務	会計
令和3年度第4期	令和4年5月18日	令和4年1月1日から令和4年3月31日	網淵 監事	小嶋 監事
令和3年度 決算	令和4年5月18日	令和3年4月1日から令和4年3月31日	網淵 監事	小嶋 監事
令和4年度第1期	令和4年8月23日 (書類による監査)	令和4年4月1日から令和4年6月30日	網淵 監事	小嶋 監事
令和4年度第2期	令和4年11月7日	令和4年7月1日から令和4年9月30日	網淵 監事	小嶋 監事
令和4年度第3期	令和5年2月16日	令和4年10月1日から令和4年12月31日	網淵 監事	小嶋 監事

○外部監査の実施状況について (よつば会計事務所)

	日時	対象期間	内容
第1回	令和4年4月16日（土） 10時00分～17時00分	令和3年4月1日から令和4年3月31日	令和3年度決算書 および明細書確認
第2回	令和4年5月7日（土） 9時30分～17時00分	令和3年4月1日から令和4年3月31日	令和3年度決算書 および明細書確認
第3回	令和4年7月20日（水） 10時00分～18時30分	令和4年4月1日から令和4年6月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第4回	令和4年10月20日（木） 10時00分～18時00分	令和4年7月1日から令和4年9月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第5回	令和5年1月25日（水） オンライン	令和4年10月1日から令和4年12月31日	各科目残高確認 収支状況の確認



## ■施設整備等について

建物設備整備としては、老朽した賃貸物件だった「あかるいどう」から、国道12号線沿いにある旧クリニックの建物を購入・改装して移転開所しました。また、移転に伴い、水道設備や避難誘導灯などの防火設備、必要な備品等を購入整備しております。その他、「たのしいどう」の各作業室と「歩～夢」各住居にエアコンを整備しました。

車両の整備としては、送迎用の車両1台を経年による老朽化により中古車両に入れ替えを行なっています。また、日本財団様より助成金を受領し、新車の8人乗りミニバンを送迎車として導入しました。

修繕の整備としてはグループホーム「虹のかけはし荘」の雪害により壊れた物置の修繕を行ないました。

### ◇建物設備整備

#### ①「あかるいどう」移転開設に係る整備事業

- 土地建物 28,000,000 円
- 主体工事費（本体改修工事、給排水衛生設備工事、電気設備工事） 5,632,000 円
- 器具・備品（IHコンロ、レンジ、冷蔵庫など） 696,140 円



#### ②「たのしいどう」作業室、「歩～夢」各住居のエアコン設置（リース）

- 「たのしいどう」5か所7台  
設置業者 株式会社中島エレキ  
リース 北海道リース株式会社 26,180 円×72回 総額 1,713,600 円
- 「歩～夢」7か所7台  
設置業者 株式会社中島エレキ  
リース 北海道リース株式会社 16,500 円×72回 総額 1,080,000 円

### ◇車両の入れ替え整備

#### ①わくわくどう 送迎車（中古車）の整備

- 導入車種：トヨタ ノア（平成29年式）
- リース 北海道リース株式会社  
31,000 円×60回 総額 1,860,000 円





②たのしいどう 送迎車の整備（日本財団助成金事業）

導入車種：日産 セレナ（令和5年式）

購入価格：2,985,980円

助成金額：1,960,000円



◇施設の修繕

- ①グループホーム「虹のかけはし荘」雪害による物置破損の建て替え  
前年度の雪害により物置が破損したため、保険の適用として建て替えをいたしました。

施工業者：倉増金物株式会社

工事価格：2,035,000円



■事故報告の状況について

□利用者さんに係る事故

- ①グループホーム利用者の行方不明による捜索 1件（無事発見）  
②支援中の利用者さんの負傷 1件（転倒による）

□車両による事故件数

- ①接触事故 3件（雪壁への接触、建物への接触等、けが人なし）

□その他

- ①利用者さんの支援中の労災事故 1件（軽傷）

## ■行事の実施状況について

コロナ禍におけるイベントの開催については、福祉施設の特性上、慎重に対応せざるを得ない状況でありました。前年に引き続き地域交流祭などの行事は中止といたしましたが、法人として10周年の節目であったことから、10周年を祝う会は全体行事として開催いたしました。その他については事業所単位で感染対策を講じた上で少人数での企画を行なっています。

日 時	行 事 名
令和4年 4月 1日	事業開始式（事業単位）
令和4年 7月 1日	あかるいどう開設式典
令和4年 7月 17日	10周年を祝う会
令和4年 9月～10月	おたのしみ小旅行（事業単位）
令和4年 12月 23日	利用者忘年会（事業単位）
令和5年 1月 18日	はたちのお祝い

### □あかるいどう移転開設式典

7月1日に「あかるいどう」が6条西9丁目から10条西4丁目の国道12号線沿いに移転いたしました。当日は利用者さんと支援スタッフでささやかながら移転セレモニーを行ない、お祝いを行なっています。移転後は生活介護の単独事業所として、バリアフリーの環境を活かした重度者向けの支援やアート活動など中心に活動を行なっています。



### □10周年記念事業について

平成24年2月に法人認可されてから10周年を記念して、2つの10周年記念事業を行ないました。

#### ① 10周年を祝う会 7月17日 日曜日

あいにくの雨でしたが、感染予防に配慮したレイアウトで久しぶりの全体行事として開催しました。

岩見沢市長にも参加していただき、お祝いのメッセージをいただきました。また、10年間利用していただいた利用者への表彰や、10年勤めていただいた役員・職員への表彰を行ないました。その他、10周年を記念するTシャツを利用者へプレゼントしています。

概要 10周年を祝う会

日時 令和4年7月17日日曜日 11:00~15:00

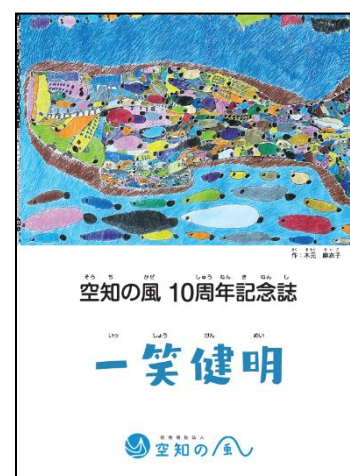
内容 岩見沢市長より祝辞、10年表彰（利用者、役員、職員）、各事業所  
の出し物、抽選会など



## ② 10周年記念誌「一笑健明」の発行

法人が設立してからの10年間の歩みをまとめた記念誌を刊行しました。利用者、役員、職員その他関与先に贈呈いたしました。

業者：東洋株式会社（札幌市）、  
松本印章印刷（栗山町）





□日本財団セレナ納車お披露目式 令和5年4月12日

公益財団法人日本財団より令和4年度の助成金を受け、日産セレナ8人乗りが3月29日に納車されました。令和5年4月12日に納車のお披露目を行なっています。



### ■その他行事の様子



事業開始式



10周年を祝う会







おたのしみ小旅行



忘年会（事業単位）



はたちのお祝い会

■ 渉外活動（令和4年度）

渉外活動	職名	氏名
空知知的しょうがい福祉協会	理事	松田
	代表者	TD 竹治・KD 横田 AD 倉増・WD 橋 HM 松田
	幹事	中山・畠山
・岩見沢市障がい者福祉施策懇話会 ・岩見沢市障がい者サポート協議会	委員	橋
全国社会就労センター協議会 事業振興委員会	委員	横田
北海道社会就労センター協議会 事業振興委員会	委員	横田

■ 苦情解決委員会および虐待防止委員会について

令和4年度の苦情体制

- ・たのしいどう（受付担当者：山本 美加）（第3者委員：小松 大記）
- ・きっちんどう（受付担当者：中筋 朋弥）（第3者委員：小嶋 孝之）
- ・あかるいどう（受付担当者：畠山 貴裕）（第3者委員：小島 孝之）
- ・わくわくどう（受付担当者：成田 純一）（第3者委員：藤田 雅子）
- ・歩～夢（受付担当者：石郷岡晴美）（第3者委員：藤田 雅子）
- ・権利擁護委員会 担当：山本 美香

令和4年度の第三者委員も交えた年度の総括会議については、前年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、集合しての会議を行わずに書面による会議といたしました。年間の苦情受付の状況や虐待防止の取組みなどについて概要を書面で報告し、第3者委員からご意見をいただきまとめています。

○ 苦情解決委員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			管理者	受付担当者	第3者委員
令和4年度 総括	書面による概要説明を郵送し、各委員より書面で意見を集約した	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度各事業所の苦情受付状況報告(書面)</li> <li>・第三者委員からの意見(書面)</li> <li>・令和5年度苦情解決体制の確認</li> <li>・権利擁護、虐待防止に向けて</li> <li>・身体拘束適正委員活動について</li> </ul>			

■利用者現況調べ（令和5年3月31日現在）

① 年齢構成（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	合計人数
男性	1	23	20	16	3	2	0	65
女性	1	13	14	9	2	1	0	40
総数	2	36	34	25	5	3	0	105

平均年齢：男性 34.9歳、女性 34.5歳、全体 34.7歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
男性	17	2	9	15	15	6	1	3.35
女性	5	1	4	9	9	8	4	3.89
総数	22	3	13	24	24	14	5	3.58

■工賃の支払い状況（単位：円）

①工賃支給比率

事業名	資金収入額(円)	工賃総額(円)	のべ支給人数(人)	支払比率
たのしいどう	19,107,912	9,203,300	438人	48.2%
きっちんどう	24,731,163	8,784,500	270人	35.5%
あかるいどう	2,259,727	2,072,100	254人	91.7%
わくわくどう	15,809,866	6,450,600	183人	40.8%
全事業合計	61,908,668	26,510,500	1145人	42.8%

②利用者工賃額

事業名	工賃総額(円)	のべ支給人数	平均工賃額	うちB型のべ 工賃支給人数	うちB型事業平均
たのしいどう	9,203,300	438人	21,012	250人	25,670
きっちんどう	8,784,500	270人	32,535	210人	33,857
あかるいどう	2,072,100	254人	8,158	23人	11,304
わくわくどう	6,450,600	183人	35,249	183人	35,249
全事業合計	26,510,500	1145人	24,239	666人	23,694



## 令和4年度 たのしいどう 事業報告

### 1. 令和4年度事業の総括

令和4年度は、4月より利用者さんが1名仲間へと加わり、7月より、あかるいどうの事業所移動に伴い、利用者さんの再編を行なっています。新しい仲間も加わり、新たなスタートとなりました。令和4年度も、感染状況に応じながら、生活スタイルや環境、作業の内容などを判断しながら、出来ることを一歩ずつ取り組み、前進しています。作業や活動、環境の変化の中で、利用者さんの様々な発見や課題も出てきており、一つずつ整理し、一緒に考えながら乗り越え、成長しています。不安や戸惑いの日々は、まだなくなったわけではありませんが、日々元気な顔を合わせられること、一緒に作業や活動、余暇を楽しむことが出来、嬉しい一年となったと感じています。少しずつ中学生の体験実習や専門学校などの施設実習などの依頼も増えてきており、人と関わる機会が増えることは、利用者さんにとっても嬉しく、刺激ある日常ともなっています。今年度は、環境整備も多々行ない、事業所内に多くのエアコンを取り付ける、作業場の備品を揃えることへも取り組みました。今年度も、感染症の防止による自宅療養や、降雪の影響による通所のお休みへご理解を頂き、利用者さんにご家族のご協力を頂きながら1年乗り越えることが出来ております。生産活動の収入では、コロナウイルスの影響も少なからずありましたが、新たな取り組みや製造班での新規の取引先も増え、利用者さんの仕事に対するやりがい、工賃へと繋がっています。毎日繰り返し行なう工程の中でも、1年の積み重ねは大きな成果や達成感にもなり、気持ちの満足度を高め、次に繋がる意欲や目標ともなっています。事業班毎の連携により、色んな困難も乗り越えた1年になったと実感しています。

### 2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型	定員 25名	現員 21名
■ 生活介護事業	定員 15名	現員 16名
■ 短期入所事業	定員 2名/日	

### 3. 令和4年度の利用状況

#### ■たのしいどう全体（定員40名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	36	35	35	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	75.7%
開所日数	25	23	26	26	24	24	25	24	24	23	22	26	292	
延利用回数	683	675	733	773	778	755	760	747	749	680	693	814	8,840	

平均実利用数 30.3名（小数点第2位以下切り上げ）

4月より、他事業所より新しく利用者さん1名が加わり、4月末に1名家庭の事情で引っ越しをされたため、1名退所しています。7月より、事業所間の再編を行ない、きっちんどうやあかるいどうより利用者さんが異動されています。

また、現員数が、定員数に満たしていないため、利用率は低くなっています。

#### ■就労継続支援事業B型（定員25名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	19	19	19	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	68.2%
開所日数	25	23	26	26	24	24	25	24	24	23	22	26	292	
延利用回数	362	357	398	458	461	444	445	419	418	366	390	464	4,982	

平均実利用数 17.1名（小数点第2位以下切り上げ）

4月に1名の新規利用者さんが、利用を開始し、7月より事業所間異動により、きっちんどうから2名、あかるいどうから1名たのしいどうへ異動してきています。

#### ■生活介護事業（定員15名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	17	16	16	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	88.1%
開所日数	25	23	26	26	24	24	25	24	24	23	22	26	292	
延利用回数	321	318	335	315	317	311	315	328	331	314	303	350	3,858	

平均実利用数 13.3名（小数点第2位以下切り上げ）

4月に1名が退所され、7月より事業所間異動により、たのしいどうからあかるいどうへ3名異動、きっちんどうからたのしいどうへ1名、あかるいどうからたのしいどうへ1名、異動してきています。

## ■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今年度は短期入所事業の利用はありませんでした。

## 4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

### ・パンと菓子の製造販売

～パン工房では、定期的に新商品や季節に合わせた期間限定商品のパンや焼き菓子等の製造、納品を継続に行なっています。市内の飲食店より、パンの開発をお願いされ、新たな取引が増えたり、イベントに合わせた特注パンを製造するなど、地域との繋がりも増えています。焼き菓子では、法人設立10周年の記念品として、紅白ロールケーキを製造し、利用者さんや役職員皆様へお配りしています。「日本農福連携協会」との繋がり、11月に宮城県石巻で行なわれた、「農福物産展」に参加させて頂き、サツマイモロールケーキとスイートポテトを販売してきております。好評で、完売することが出来ております。色々な方の支えや縁により、売上へと結び付いています。

### ・利用者昼食、グループホーム食事製造委託作業

～季節に応じた旬の食材を使用し、彩りある、栄養バランスを考えたメニュー作りに努めています。デザートも手作りし、利用者さんの食事の楽しみもより増やせるよう工夫しています。今年度は、12月の利用者忘年会で、「花形の巻き寿司」にも挑戦し、製造する利用者さん達の作り楽しみや経験も増やすことが出来ています。月1回の「お楽しみメニュー」も好評のため、今後も継続して行なっていきたいと思っております。皆さんが、食への楽しみや関心、興味が感じられるメニューを提供するよう、今後も心掛けていきたいと思っております。

### ・紙工芸品と受注作業

～しめ飾り製造に重点を置いた紙工芸品作りでは、デザインを毎年変更し、工夫しながら進めています。種類を増やしたり、干支のしめ飾りも製造し、作る側も購入して頂くお客様も楽しんで頂けるよう、一つずつ丁寧に製造しています。受注業務では、箱折や町内の公園清掃、文房具の封入等、季節に応じた様々な作業や委託業務へと取り組んでいます。ウエス製造も、定期的に注文を頂ける顧客も増え、売上へと繋がっています。一人ずつが担える、得意とする工程を細分化する事で、皆の力が集結し、様々な作業も達成する事が出来ています。

#### □ やりがいや楽しさを創出する活動

- ・ 作業活動のほか、かるたゲームやトランプゲーム、季節に応じた制作、映画鑑賞等、様々な余暇支援を行なっています。曜日毎に、作業と活動の時間を区切り、活動を通して、体の休息と心の休息も行ないながら、日々楽しんで頂けるような取り組みを大切に進めています。

#### ■ 権利擁護

利用者さんの障がい特性や年齢も様々であり、利用者さん同士の間関係など、日々の細かな対応が求められる中では、スタッフ朝会、会議時のケース報告で日々話し合う事を積み重ねました。限られた時間の中で答えが出るものとそうでないものがありますが、支援上の課題を共有することや情報共有の機会にもなっています。

#### ■ 苦情解決

今年度の苦情・要望受付は1件でした。親御さんからの苦情で、直接口頭による説明と文章による説明で対応させて頂いております。相談受付箱に投函された苦情や要望はありませんでしたが、利用者さんが抱える不安や悩みを日々聞き取り、話しをする機会を設けています。少しでも、利用者さん一人ずつが過ごしやすく、通いやすい環境を整え、職員がすぐに相談、解決へと応じられる支援が出来ればと考えています。

#### ■ 感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから例年実施している利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。体調不良者は、厨房に入らない（持ち込まない）を徹底し、利用者さんの体調管理と共に衛生面の確保に変わらず配慮しました。昨年引き続き、新型コロナウイルスの対策も重点的に行なっています。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。ご家族とも連絡を取り合い、健康状況の変化の把握、発熱時の通所判断の検討や早退などを、ご家庭にも協力を頂きながら進めています。実施機関の福祉課とも連携し、感染予防に必要な在宅支援での対応を承認してもらうなどの調整も、今年度も継続して進めています。

#### ■ 災害対応・事故対策

今年度の避難訓練は、感染症対策の観点から、利用者さんと職員のみ自主訓練を2回実施しています。事業所全員が、1か所に避難で集まることは、感染リスクが高まるため、避難場所を事業班毎に設定し、密を避けながら、

地震や火災を想定した通報、避難までの訓練を実施しています。地震や火災発生時の注意点や、避難経路、避難口の判断、優先順位などを利用者さんへお話ししています。常に動きを想定、イメージすることの大切さを改めて再認識し、避難の対応について、学ぶ機会となりました。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。

- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

今年度は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、8月に実施しています。

■工賃支払い状況

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	18	19	19	22	22	22
総支給額	362,700	327,900	313,400	459,100	400,400	390,100
平均額	20,150	17,258	16,495	20,868	18,200	17,732

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	22	22	21	21	21	21	250
総支給額	425,200	389,200	1,165,900	414,800	347,600	1,421,400	6,417,700
平均額	19,327	17,691	55,519	19,752	16,552	67,686	<b>25,670</b>

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	16	17	16	15	15	15
総支給額	183,800	173,800	158,100	190,300	166,600	155,300
平均額	11,488	10,224	9,881	12,687	11,107	10,353

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	15	15	16	16	16	16	188
総支給額	167,000	164,100	549,200	182,300	157,700	537,400	2,785,600
平均額	11,133	10,940	34,325	11,394	9,856	33,588	<b>14,817</b>

□事業所全体の平均工賃額 ¥ 21,012 / 月 (37名)

5. 課題

今年度は、7月からの利用者さんの異動に伴い、作業場の環境整備や作業内容の見直し、メンバー編成などに取り組んでいますが、様々な課題も出てきています。人数が増えることにより、作業の確保や工賃、支援の検討が必要と感じています。コロナウイルス感染状況は続いておりますが、少しずつ生産活動の努力もあり、収入は戻ってきています。しかし、小さな結果も積み重ねにより、成果は出てきていますが、維持することも重要だと感じています。大きな工賃向上には繋がってはおりませんが、生産力や作業ばかりに目を向けるのではなく、利用者さんが安心して、毎日通所出来る環境づくりも大切だと感じています。自分の役割を担う作業や活動があること、仲間がいること、皆と一緒に取り組むことがやりがいへと感じて頂ける場所が何より必要と感じています。頑張る、我慢する事だけではなく、楽しみや達成感が感じられるような支援を今後も強化していきたいと考えています。

## 就労事業の報告

### ■事業班名：レインボー&クリアー

#### 1. 取組みの概要

クイリング製法で作成した、しめ飾りや季節やイベントに合わせた製品作製、ウエス製造へと取組む「レインボー班」と、企業や仲間の施設から請負う様々な下請作業、地域の公園清掃委託へと取組む「クリアー班」の二つに分かれて活動を行ないました。

「レインボー班」のしめ飾り作りでは、毎年デザインを変更し、購入頂くお客様に喜んで頂ける様、作製と販売を進めています。

ウエス製造も、継続的に注文を頂く顧客も出来、希望するサイズに裁断しながら、納品を行なっています。また、新規のお客様に繋がる様、営業も行ないました。



「クリアー班」では、箱折りの委託を継続的に請け、作業を進めています。7月から異動してきた利用者さん達も、意欲的に箱折り作業に取り組む事が出来ています。仲間の施設からも割りばしの袋入れの作業や、マスクの封入作業の委託を受け、一つひとつ丁寧に進め、確認を行ないながら納品を行なっています。公園清掃では、昨年同様、空知の風のロゴ入りジャンパーを着て、4つの地域の公園清掃に取り組みました。

毎年、玉ねぎの梱包作業の委託を請け負っていましたが、事業が撤退した事で、請負がなくなっています。しかし、新たに各事業所、厨房洗い場足元のマットを回収、洗浄する作業と館外の環境設備にも力を入れ、取り組む事が出来ました。





## 2. 成果

今年度は、企業から請け負う仕事の流れや組み立てが身に付き、一人ひとりの取り組む姿勢に自信が付いてきたと感じています。また、利用者さん自身が、スキルアップに向けた意欲的な行動も、多く見られたと感じています。従来からのクイリング製法での製品作りを得意とする方、ウエスの裁断やごみ取りを得意とする方、箱の折りに沿って、箱折りが綺麗に出来る方等、それぞれ得意な事や、新たな挑戦をしたいという意欲が高まり、作業へと取り組む事が出来ていたと感じています。作業の工程に携わることが難しい利用者さんに対しては、パズルやメモ帳作り等、一人ひとりが落ち着いて取り組める内容を提示し、活動の一環として取り組んでいます。

## 3. 課題

企業や顧客に不利益にならない様、事業を進めることが大事だと感じています。しかし、取り組める作業内容や進み具合も個人差がある為、利用者さんが取り組みやすい環境設備や作業内容の見直しが必要と感じています。利用者さんも加齢とともに、出来る活動にも差が出てきています。作業の安定は、利用者さんの心身の安定にも繋がるため、声掛けや誘導の支援が大切であると感じています。また、反対に心身の安定は作業への安定にも繋がる為、一人ひとり落ち着いて過ごせる様、個々に合った必要な支援を行なっていこうと思います。

### ■事業班名：ぱん工房春いろ

#### 1. 取組みの概要

長引く新型コロナの影響で、納品先や販売先の規制もありましたが、徐々に緩和され、少しずつ再開されています。店舗の新商品開発にも力を入れ、皆で意見を出し合いながら様々な試作を繰り返し行ない、商品化する事が出来ています。また、夏のお中元やクリスマス等、期間限定のギフトや商品も利用者さんのご家庭に紹介させて頂き、ご協力頂いております。仲間の事業所からも、クリスマスケーキや菓子セット等、様々なイベントに合わせて受注が入り、売上にも繋がっています。パンやロールケーキも道内、道外の事業所から、定期的に注文を頂き、冷凍発送も継続しています。

今年度は、セキスイハイム（株）様より、ヘルスアップ事業の一環として朝食を食べていない職員に対して、朝食を提供したいとのお話を受け、数日間試験的に取り組んでおります。新年度に向け、更に営業を進めていきたいと思っております。



## 2. 成果

新商品の入れ替え等により、店舗のパンの売上が伸びています。春いろイチオシの商品である、キタノカオリ食パンや生食パンを購入されるお客様が徐々に増え、食パンブームの影響もあり、リピーターも付いてきていると実感しています。市内のお店より、ベトナムのサンドイッチ「バインミー」を販売するため、専用のバケツを作ってほしいとの依頼を受け、試作を重ね、商品化に繋がっています。また、利用者さんのご家族の好意により、友人知人へと宣伝して頂き、定期的に注文を取りまとめて頂く等の協力もあり、積み重なる売上が春いろの支えともなっています。数年続いて受注受けています、月形小学校の卒業式、入学式等の菓子セットも好評頂いております。保育園のアレルギー対応へのパン提供、高校のクラブ活動の父母の会様より、野球ボールのようなパンを作ってほしいと依頼を受け、お客様のニーズに合わせ、今年度も様々な商品を開発し、提供することが出来ています。

## 3. 課題

食品表示法やHACCP義務化に向けて、日々取り組んでいる所ですが、法律を正しく理解し、誰もがきちんと知識を身に付け、取り組んでいくことへの難しさを感じています。1つの製品として、安全にお客様へ届けられているか等、適切なチェック体制作りが、今後とても大切だと感じています。原材料や資材、原油の高騰により、商品の価格や規格の見直し等も行なっています。また、新たな納品先の開拓も目指しながら、現在、注文頂いている納品先を大切にし、売上増を目指していけたらと思います。少しでも利用者さんの工賃へ還元出来る様、チームで協力しながら、売上へと繋げていけるよう、努力していきたいと思っています。

## ■事業班名：さんくつく

### 1. 取組みの概要

さんくつくでは、たのしいどうへ通所されている方の昼食製造作業の他に、グループホームの朝食製造と夕食の一部製造作業を行なっています。昼食製造では、利用者さんに喜んで頂ける献立も取り入れながら、バランスや季節感も考慮した献立を製造し、食への関心が高まることを目指しています。グループホームの朝食・夕食製造では、作った料理を食数に合わせて計量し、正確に分けるよう心掛けています。また、衛生管理に気を付けながら、安心して食べて頂けるように、食品の管理や製造を皆で協力しながら、取り組んでいます。



### 2. 成果

昼食製造では、引き続き、仲間の事業所の製品を使った献立立案や、珍しいメニュー、また、手作りデザートを献立に取り入れる事で、作る利用者さんも楽しみながら製造へと取り組んでいます。毎月、旬の食材を使ったメニューを取り入れる事で、食べて季節感を感じられるように心掛けています。月1回のお楽しみメニューでは、利用者さんが喜んで頂けるメニューを考え、工夫しながら提供しています。利用者さんも大変喜ばれています。献立立案時に仕込みのあるメニューを組み合わせる工夫を行ない、利用者さんの作業工程の細分化が出来るようにしています。食材購入時にも、野菜や主菜となるコロケなどは既製品を購入せず、一つずつ手作りすることで、利用者さんの作業スキルの向上や様々な作業経験を重ねられる機会にもなっています。作業の中では、利用者さんのペアリングに考慮し、作業場所2か所を活用することにより、働きやすい環境の配慮や時間の工夫等も行なっています。また、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の記録は引き続き行ない、気になったことは記載し、より改善へと繋がる様な取り組みも行なえています。

### 3. 課題

衛生管理の面で、利用者さんへの声掛けや確認は、今後もより強化していく必要があると感じています。髪の毛が料理に入ることが続くなど、今までの方法ではなかなか改善が見られない場合は、その都度方法を変更していく必要があると感じています。献立によって、利用者さんの1日の流れも変化してくるため、作業が確保出来るような仕込みの量や作業工程、献立のバランスを考え、組み合わせの工夫や支援が今後も大切だと考えています。より利用者さんの調理技術が高まり、色々な経験が重ねていける様、今後も取り組んでいきたいと思えます。

#### ■データ（たのしいどう）

1. 製造販売事業	売上 1 7 9 2 万円	工賃還元額	8 1 3 万円
2. 下請加工事業	売上 1 1 3 万円	工賃還元額	1 0 7 万円

## 令和4年度 きっちんどう 事業報告

### 1. 令和4年度事業の総括

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症がより私たちの生活圏域に入り込んできた中での1年間でした。ご家族や利用者さん自身も陽性者となったケースが発生しました。幸い軽症で経過し、感染も拡大することなく、通常業務を進めながら一人ひとりの感染期間を乗り越えつつ、皆さんと生産活動を進めてきました。

利用状況では、コロナ禍においても地域で障害福祉サービス事業所が増え続けており、既にサービスを利用している方にも様々な情報が入りし、利用者さんにとって「より良い場」を模索され、退所するケースが出てきています。

就労事業の製造販売事業の弁当製造販売では、新型コロナウイルスが感染拡大し始めての3年に渡り、大口受注の問い合わせはありませんでした。前年度から販売ターゲットとした、毎日ご利用いただける顧客を中心に営業を進めたことと法人内部の利用者さんの食事提供を担ったことで、このコロナ禍でも安定した製造販売数を保つことができました。

感染症がまん延する中、ご家庭でも事業所でも外出や行事を諦めなくてはならない日々続いておりました。法人設立10周年を迎え、内部ではありましたが、法人内の皆さんと顔を合わせて行なえた行事は、久しぶりに皆さんの笑顔をたくさん見ることができました。小規模ではありますが、近隣への外出行事を行なう等して、楽しむ時間を設けて過ごしていただいています。

### 2. 実施事業

- 就労継続支援事業B型                      定員14名      現員19名
- 生活介護事業                                定員6名      現員6名

### 3. 令和4年度の利用状況

- きっちんどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	24	24	24	23	23	23	22	21	21	21	21	21	25	89.6%
開所日数	25	23	26	26	24	24	25	24	24	23	22	26	292	
延利用回数	471	468	490	471	472	439	431	412	407	367	370	434	5,232	

平均実利用数 18.0名（小数点第2位以下切り上げ）

■就労継続支援事業B型（定員14名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	19	19	19	18	18	18	17	16	16	16	16	16	19	97.5%
開所日数	25	23	26	26	24	24	25	24	24	23	22	26	292	
延利用回数	370	367	380	362	362	338	324	309	303	275	272	322	3,984	

平均利用数 13.7名（少数点第2位以下切り上げ）

4月より新規で1名、あかるいどうから1名が利用開始。

7月から1名がたのしいどうに異動されています。

10月に1名、11月に1名が退所されています。

■生活介護事業（定員6名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	71.3%
開所日数	25	23	26	26	24	24	25	24	24	23	22	26	292	
延利用回数	101	101	110	109	110	101	107	103	104	92	98	112	1248	

平均利用数 4.3名（少数点第2位以下切り上げ）

7月から1名があかるいどうに異動され、あかるいどうより1名が異動されています。

4. 取り組みの概要

□事業所内の生産活動

令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策を行ないながらの活動となりました。手洗い・消毒の遂行と換気を常に実施したことで、感染症による閉所をすることなく、活動を行なうことができます。

新型コロナウイルス感染拡大が始まった年は、売上が前年比2/3まで落ち込みましたが、今年度は、昨年度から取り組んだ個人客の確保を進めた成果も加わった上、7月に移転したあかるいどうの昼食を担ったことで安定した生産活動と売上を確保することができました。

HACCPの考え方を取り入れた衛生管理についても継続実施。「異物混入」については、お客様からの申し出に対し、仕入れ業者含め、原因の確認を行なうケースもありました。事業所・仕入れ業者と迅速に対応したことで、苦情に発展することなく、対応を終えられています。

地産地消、事業所間取引につきましては、単体事業所としてできる範囲で取り組みを進めています。新たなつながりとして、法人で参加した農福

連携全国フォーラムのイベントに出品することができており、肉巻きおにぎり販売の可能性を見出しました。

#### ■ 権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。併せて日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせも実施。今年度も例年のように委員会を対面で行なう機会を持たず、書面での情報共有やオンラインの職員会議などで「権利擁護」について取り上げています。また、事業所内でガイドブックを使用しながらパート職員を含め、小単位で権利擁護について、周知を行ない情報の共有を進めました。特に新しい職員に対しては知的に障がいのある方を支援するための行動規範や、特性による個別な関わり方については個別対応して伝えています。

#### ■ 苦情解決

苦情受付については、令和4年度1件となっています。

苦情として受け付けた1件については、利用者さんからの苦情で、利用者同士の過干渉や威圧的な態度についての内容でした。双方から話を聞き、対応いたしました。根底からの解決へ至ることができませんでした。引き続き、人との関わり方を含め、環境にも変化をつけ、皆で気持ちよく利用できる場にしていけるように支援を継続していくこととしています。

#### ■ 感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。毎月行っている検査から食中毒を起因するような保菌者はいませんでした。

新型コロナウイルスでは、医師の診断でなくても、抗原検査の結果で判断可能となり、法人で用意された抗原検査キットは効果を発揮しました。発熱後の利用再開、勤務の再開において、抗原検査を実施できたことにより、陰性を確認した上で、感染予防を実施し、事業所でのクラスターなどを引き起こすことなく過ごすことができています。ご家庭でも体調管理にご協力いただき、体調不良の際には、通所前にご相談の連絡を頂いたり、早めの受け入れをして頂いたりなどし、新型コロナだけでなく、インフルエンザなどの感染症が事業所で蔓延することはありませんでした。

実施機関の福祉課とも連携し、感染予防に必要な在宅支援での対応を承認してもらいなどの調整も行ないました。



## ■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しました。今年度も消防署ではコロナ対策を講じており、消防署の立ち合いなしでの自主訓練となっています。近年、災害も多く発生しておりますので、地震想定避難についてや大雨による洪水が起きた時の避難についても避難訓練と合わせて、学ぶ時間を設けています。

慌てず、安全に避難することの大切さについてもDVDの視聴で学んでいます。

## ■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

## ■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・利用者の個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論し、作成に努めています。
- ・ケース会議・・・利用者について担当より報告し、事例検討を実施。支援方針を立案、共有しています。

## ■健康管理

今年度は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、8月に健康診断を実施しています。

平均年齢が40歳に近付いてきていることもあり、健診結果による必要な医療受診は勿論、要観察についてもご家庭にも協力を得ながら、日頃からの生活習慣や食事の摂取量についても気を配るようにしています。

## ■工賃支払い状況

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	19	19	19	18	18	18
総支給額	482,200	475,400	458,300	509,700	447,800	451,700
平均額	25,379	25,021	24,121	28,317	24,878	25,094

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	18	17	16	16	16	16	210
総支給額	469,700	470,700	1,268,100	465,200	406,800	1,204,500	7,110,100
平均額	26,094	27,688	79,256	29,075	25,425	75,281	<b>33,857</b>

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	5	5	5	5	5	5
総支給額	103,100	87,100	87,100	105,900	92,500	92,500
平均額	20,620	17,420	17,420	21,180	18,500	18,500

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	5	5	5	5	5	60
総支給額	107,400	113,100	386,000	126,200	105,500	268,000	1,674,400
平均額	21,480	22,620	77,200	25,240	21,100	53,600	<b>27,907</b>

□事業所全体の平均工賃月額 ¥ 3 2 , 5 3 5 / 月 (平均 2 2 . 2 名)

5. 課題

新型コロナウイルス感染症の拡大により、利用者さんの生活にも非日常が続いており、日々我慢を強いられる生活は、ストレスを生み出します。このような状況下で、利用者さんに利用することを楽しみにしていただける取り組みはますます重要になります。生産活動に並行し、日々の活動の中でストレス解消を行なえる時間を確保していくことの大切さを感じた1年でした。

今年度、生産活動では、新たにあかるいどうの食事を担わせてもらいました。食事時間を笑顔で過ごして頂けるようなメニューで提供できるように利用者さん含めて製造にあたっています。材料の高騰の煽りもありますが、楽しんでもらえる食事提供に引き続き努めて参ります。

新型コロナウイルスが感染拡大し、外部との交流が希薄になっていくことも経験しました。所属している団体や事業所の状況把握を含め、現場の職員と改めて活動の場をつなげられるような機会を考え、生み出せる活動に戻していくことができるよう努めたいと感じています。

## 就労事業の報告

### ■事業班名 てのひら

#### 1. 取組みの概要

今年度も製造販売事業班として、おにぎり・お弁当の製造販売、利用者昼食提供に取り組みました。今年度は、7月より移転をしたあかるいどうの昼食製造に新たに取り組みました。移転した先での、初めての昼食時には、お弁当の入れ物を見ただけでも歓声があがり、「美味しい」と繰り返し喜んで食べていただいた姿がとても印象的でした。お弁当のスタイルでは、実行することが難しいリクエストで、「麺が食べたい！」という声も上がっていましたので、実現に向けて検討していきたいと思えます。

地域のご注文では、一人暮らしの高齢者の方からのご注文等、注文数の増減はありますが、大変喜んでいただいております。新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた年から、北村で大規模河川工事が開始されています。工事は単年度毎で業者が入れ替わりますが、この現場の皆さまからもご注文を頂いております。3年を経過したことで、次期の工事に入ることが決まり次第、きっちんどうへ注文のご連絡を入れていただける業者も出てきてくれます。配達先はそれぞれですが、オーダーが入る度に利用者さんは笑顔で製造に取り組んでいます。



おにぎりの製造販売では、昨年度、冷凍食品製造業許可をとった肉巻きおにぎりがコロナ禍ではありましたが、販売場所を拡げています。雪の聖母園のマンマルーナにて肉巻きおにぎりを冷凍食品として販売できるようになりました。また、法人で参加している「日本農福連携協会」から、「農福連携物産展」に出展させていただき、イベントが少ない状況下でしたが、肉巻きおにぎりのアピールを行なわせてもらうことができています。



オーダー弁当



新メニュー ハンバーグカレー弁当



恒例 うどん弁当

## 2. 成果

今年度も各種行事・イベント等、皆さんが集まって食事をする機会は増えることなく、大口の注文はありませんでした。しかし、法人内の食事提供と個々の弁当を受注することで、おおよそ1日150～200個の製造で作業を行なうことができています。製造量も売上も安定し、利用者さんにも作業をしやすい状況になっています。同じメニューでの追加製造を行なえる法人内の食事提供や日替わり弁当の増加は、作業環境の変化も少なく、安定した流れで行なえる注文となりました。

肉巻きおにぎりも冷凍食品として、店舗での対面販売の卸売りやネット販売などこれまでとは違う販売形式で販売することができ、様々な可能性を見出すことができる1年となりました。

お弁当・おにぎり事業の収入では、あかるいどう昼食の製造を行なわせてもらえたことで、新型コロナウイルス感染症が拡大し始める前の年と同じくらいの売上に戻すことができ、工賃も以前の工賃額をお渡しすることができるようになっています。

## 3. 課題

令和4年度は、利用者さんの働く場の確保として、注文を頂き、作業を安定確保することに努めました。安全に作業を行なうためには、感染防止のため、手洗い消毒の遂行や限られたスペースの中で3密にならないような工夫をしながらの製造を行なう必要があり、利用者さんにもたくさんの協力を頂きました。しかし、日常から我慢や制限を繰り返し行なう生活の上に、活動の場でも制限がかかることは利用者さんにとって負担になった様子を感じました。楽しく活動を進めていくためには、心身ともにリフレッシュをすることが必要です。次年度は、少しずつですが、コロナ前の行事や旅行などの楽しみと並行して活動に励むことのできる両立した状態に戻していくことができればと考えています。



外出行事：栗山公園へ



外出行事：由仁ブドウ狩りへ



外出行事：岩見沢公園へ

## ■ 事業班名 まごころ

### 1. 取組みの概要

下請加工事業班として、自動販売機の管理の実施。  
他事業所製品の仕入れ販売を店舗にて行ないました。

### 2. 成果

自動販売機の売上手数料は、少ないながら毎月安定して得られています。  
他事業所製品については、以前のような対面での交流が減り、新しい商品などの情報も少なく、仕入れも限られた事業所からのものになってしまい、紹介できる商品が確保できませんでした。

### 3. 課題

他事業所製品の購入・販売については、コロナ禍で職員自身の交流が少なくなってしまう環境では、情報が得られる場もなくなり、継続することが難しい状況でした。また、新型コロナウイルス感染症が沈静化した際には、職員の交流を含め、事業所の商品情報を収集し、販売を再開していきたいと考えています。

## ■ データ

- |           |    |         |       |         |
|-----------|----|---------|-------|---------|
| 1. 製造販売事業 | 売上 | 2,460万円 | 工賃還元額 | : 865万円 |
| 2. 下請加工事業 | 売上 | 13万円    | 工賃還元額 | : 13万円  |

## 令和4年度 あかるいどう 事業報告

### 1. 令和4年度事業の総括

令和4年度は、4月より男性1名、女性1名が仲間へと加わり、7月には、事業所が移転し、単独型生活介護事業所として新たなメンバーも加わり再スタートしました。

コロナの感染状況に対応をしていきながら、引っ越しに向けた準備を行ない日中活動の生活スタイルや環境整備、作業の取り組みなどを皆さんと一緒に少しずつ進めていきましたが、利用者さんの中には、環境が変わることや、事業所の移動に対し不安を抱える方もいて、日々話し合いや相談の場を作り、少しでも不安をとりのぞけるよう対応させて頂きました。ご家族の協力も頂きながら7月に向けた準備を皆さんと進めていく事が出来ました。

7月からは、新たな事業所でアート活動や下請け作業のほかに活動支援、生活支援を中心に、日々の通所を楽しんでいただけるよう活動を進めてきました。

今年は、法人設立10周年の年となり、コロナ感染予防に留意しながら久しぶりに皆さんが集まり記念式典に参加することができました。ソーシャルディスタンスやパーティションなどの感染対策がある中ではありましたが、久しぶりに皆さんの良い笑顔を見ることができました。また、各事業所で少人数ではありましたが、外出行事を組み動物と触れ合ったり、ボウリングを楽しんだりと自ら選んだ行事に参加され、楽しい時間を過ごしていただきました。

7月からは、事業所内における活動内容を作業支援中心から活動支援と生活支援を中心にシフトしました。身体機能の維持の為に体操や散歩なども取り入れたり、季節にあわせたオーナメントを作って館内を飾るなど日々皆さんと一緒に楽しんで過ごした1年間でもありました。

### 2. 実施事業

令和4年4月～6月末まで

就労継続支援事業B型	定員10名	現員 8名
生活介護事業	定員10名	現員16名

令和4年7月～

生活介護事業	定員20名	現員23名
--------	-------	-------

### 3. 令和4年度の利用状況

#### ■あかるいどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	22	23	23	21	21	21	20	21	21	21	21	20	21	82.8%
開所 日数	25	23	26	26	24	24	25	25	24	23	22	26	293	
延利用 回数	421	428	450	409	407	385	397	399	399	374	371	415	4,855	

平均実利用数 16.6名（小数点第2位以下切り上げ）

4月より、高等養護卒業の方が1名、他事業所より1名が加っています。7月には事業再編の為の異動を各事業所内で行なっています。また、入院中の方や、通所が安定しない方もいるため、利用率は今後の課題だと感じています。

#### ■就労継続支援事業B型（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	8	8	8										8	65.5%
開所 日数	25	23	26										74	
延利用 回数	152	159	174										485	

平均実利用数 6.6名（小数点第2位以下切り上げ）

7月から生活介護単独事業に再編したため6月末でB型は廃止しています。

#### ■生活介護事業（4月～6月定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	14	15	15										15	73.3%
開所 日数	25	23	26										74	
延利用 回数	269	269	276										814	

平均実利用数 15.0名（小数点第2位以下切り上げ）

4月に1名の方が、他事業所から加わっています。



■生活介護事業所単独型（7月～定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数				21	21	21	20	21	21	21	21	20	21	81.2%
開所日数				26	24	24	25	25	24	23	22	26	219	
延利用回数				409	407	385	397	399	399	374	371	415	3,556	

平均実利用数 21.0名（小数点第2位以下切り上げ）

7月より、生活介護単独型の事業所に変更。1名の利用者さんがきっちんど、3名の利用者さんがたのしいどうへ異動されています。たのしいどうから3名の利用者さんがあかるいどうに異動されています。

#### 4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

- ・製造販売事業

～移転までの4月から6月末の3か月間、昼食製造と事業所間の昼食に使われる総菜造りを週2～3回のペースで取り組み一人一人が自分の役割に対し責任を持ちながら製造や惣菜作りに取り組みました。利用者さんが取り組みたい作業内容や調理工程を職員が把握し本人さんのスキルアップに向けて支援を実施しました。

各事業所の昼食に利用して頂いている惣菜も、3か月間を通して安定的な製造数で注文を受けることが出来ました。

- ・受注作業

～空知の風の10周年を記念し、利用者、役職員に向けた感謝状の受注を受け、紙工芸品（クイリング）の技法を活かした賞状を作成いたしました。アートのモチーフを活かし、紙工芸品（クイリング）を使用した「しめ飾り」製造を利用者さんご家族や職員に向け製造と販売をさせていただきました。初めての取り組みではありましたが、製造工程を細かく分けながら一人でも多く製造に取り組めるよう支援を実施しました。

- ・下請加工事業

～企業との業務委託契約については、昨年度3月末にて終了となり、4月より新たにに取り組む作業の確保に努め、7月からお菓子の袋のシール貼りや箱折作業の仕事をいただき取り組むことができました。

- ・アクアリウム事業

～昨年同様に「たのしいどう」と「あかるいどう」の水槽メンテナンスを進めていましたが、年度途中で新たに契約を結ぶことができ、「わくわくどう」

と共同で進めてきました。また、その他に水槽のバックボートの絵画も作成させて頂いています。始めたばかりで、デザインや色の塗り方など調整が難しいこともあります。少しずつ進めていく事が出来ました。

#### ・アート活動

～昨年度に続き法人内の各店舗に飾るレンタル画の制作に取り組んでいます。7月からは、厨房作業がなくなったことで、皆さんでアート活動に取り組めるように準備させて頂きました。利用者さんの特技を生かした技法で制作し、一人ひとりが好んだ創作内容や得意とする技法を選択することで、個々の才能が素晴らしい作品となって生まれました。

岩見沢アール・ブリュットギャラリーにて12月19日から令和5年2月末まで前期、後期と分けて、あかるいどうの利用者さんの作品のみでの展覧会を行ないました。その他、「みんなアート」「北海道障がい者アート展」などに応募させて頂き自分の作品が選出されることで自信が芽生え、皆さんの創作意欲や創作技術の向上が見られました。

#### □楽しみを中心とした活動や運動

##### ・活動支援

作業活動のほか、映画鑑賞や、ミニゲーム、季節感を出したオーナメント制作など様々な幅を広げた活動支援を行なっています。また、ラジオ体操や散歩など機能維持や、体力維持に向けた活動も少しずつですが進めています。

#### ■権利擁護について

権利擁護、苦情解決委員会の活動として、担当者が中心となり職員に対し研修会を行ないました。年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「権利侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施し意識の向上を図りました。

利用者支援については、その日あったことを職員同士が振り返り情報を共有しながらケース対応について検討しました。また、虐待のニュースや情報があった際は、職員全体に朝会等で周知し常に自分の支援を振り返り行なうことをお願いしています。

#### ■苦情解決委員会

苦情受付については、令和4年度、受付件数は2件となっています。相談受付箱による提出はありませんでしたが、人との距離の取り方について、環境が変わったことで、環境に適応できず日々スタッフに対し訴えの多い方がいらっしゃいました。都度、話をする時間を作り作業や生活している中で感じる疑問や悩み等の相談を受け付けています。

## ■感染症対策

令和4年度は、コロナウイルス感染予防の対策を継続して取り組んでいます。事業所内の集団感染はありませんでしたが、利用者さん本人さんやご家族の方がコロナ感染の陽性と判定された方が数名いました。療養している利用者や待機している利用者さんに対して各市町村と連絡調整を行ない在宅支援にて対応させて頂きました。ご家族からもご理解をいただき、無事に健康観察・療養期間を終え通所再開しています。今後も、事業者内の感染予防については引き続き対応していきたいと思っております。

## ■災害対応・事故

非常災害・事故対策では、7月に事業所を移動した後、避難訓練を実施しています。建物が国道沿いにある為、避難経路を確認し道路に飛び出さないように利用者さんの行動に注意して避難を実施しています。また、災害時の訓練については、昼食に非常食のカレーを皆さんで食べています。その後、水災害DVDの鑑賞のあと訓練を行ない災害時の対応、避難経路、避難方法、避難先等を再度確認する機会としました。

## ■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告書参照。その他あかるとどうで参加した展示会等について

- ・5月～「乗り物で出かけよう～北海道障がい者のアート展より」
- ・8月～「ハート&アート」
- ・9月～「みんなあ～と」
- ・12月～2月「アール・ブリュットそらかぜ展」
- ・3月～「カクカクシカジカ～みんなのカタチ～展」
- ・3月～「北海道障がい者のアート」

## ■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。オンラインにて実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

- ・今年度は、感染状況を見ながら8月に健康診断を実施しています。日々の検温を含め、体調管理を徹底しました。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業 B 型

月	4月	5月	6月	合計
実人数	7	8	8	23
総支給額	85,500	88,900	85,600	260,000
平均額	12,214	11,113	10,700	<b>11,304</b>

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	13	14	15	22	21	21
総支給額	110,500	96,000	90,100	210,300	152,200	148,300
平均額	8,500	6,857	6,007	9,559	7,248	7,062

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	21	20	21	21	21	21	231
総支給額	199,900	163,400	345,200	122,200	110,500	63,500	1,812,100
平均額	9,519	8,170	16,438	5,819	5,262	3,024	<b>7,845</b>

□事業所全体の平均工賃月額 ¥ 8, 1 5 7 / 月 (平均 2 1 . 2 名)

5. 課題

事業所が移転して環境が変わったことで、利用者さん同士の間関係や、環境の整備、障がい特性による課題に直面することになり、日々の中で少しずつ何ができるのか、どのように環境を作れば、利用者さんの安定や楽しみにつながるのかを日々考えています。

また、利用者さんのアート作品を知ってもらえる場をどの様に拡げていけるかを課題として感じています。

## 就労事業報告

### 1. 取組みの概要

#### ■事業班名 下請加工事業 さんさん

「さんさん」では、企業からの下請けとして、箱折りやシール貼りの作業に取り組み、事業所内では主に創作活動と館内清掃、水槽のメンテナンス業務に取り組みました。

創作活動では、各事業所へのレンタル画や展示会出展に向けた作品作りなど、アート制作活動に取り組みました。様々な画材や技法を使いながら個人作品から共同制作へと、個々のアイデアや意見も取り入れながら楽しく作り上げ、展示会に出展しました。また、今年も2か月間にわたり岩見沢アール・ブリュットギャラリーにおいて、あかるいどう単体での展覧会「そらかぜ展」に15名の利用者さんが作家として選ばれ、多くの作品が展示されました。年末には、利用者さんの絵画をデザインとして取り入れた、2023年オリジナルカレンダーを制作販売し、お世話になった施設や役員の皆さんへ、法人からの挨拶としてお渡ししています。

また、生活支援の一部として身体機能の維持の為、1日2回体操を取り入れ、天気がよいときは近くの公園などに散歩に行き、創作に使えるような木の葉や小枝を拾い想像力を高め、また、季節にあわせオーナメントを作って館内を飾るなど日々皆さんと一緒に楽しんで活動に取り組みました。



展示作品（一部）



事業所内の清掃委託業務では、作業場、トイレの清掃、施設周りのごみ拾いや除草作業等を行ない、皆さんが過ごしやすい環境作りを目指し、取り組みました。

水槽のメンテナンスについては、今年度外部との契約を結ぶことができ「わくわくどう」と共同で作業を進めていきました。水質管理や病気ケアの難しさがありました。専門業者からの指導を受け、病気の対応や水質を安定させる事が出来ています。



散歩や余暇活動の様子

#### ■事業班名 製造販売事業 にこにこ

食品製造班にこにこでは、4月から6月末まで利用者さんの昼食製造と、各事業所へ納品するハンバーグやサラダなどの惣菜製造を行ないました。それぞれの役割に視覚情報を用いて作業を明確にし、調理技術の習得を目指して取り組みました。短い期間ではありましたが、みなさんに安心安全でおいしい食事を提供できる様に頑張りました。

製造販売としては、今年アートと紙工芸品（クイリング）を用いたしめ飾り製造を行いました。上手に作れるか不安を抱えながらのスタートでしたが、利用者さん一人一人の得意なことやできることを職員と一緒に考え、細かく工程を作ることで、多くの方が、取り組むことができました。利用者さんご家族、職員向けに販売を行ないたくさんの方に購入していただきました。



日中活動の様子



## 2. 成果

今年度は、年度途中の事業所移転もあったことで、利用者さん自身も楽しみにされている方や、不安を感じている方などそれぞれいらっしゃいました。まずは、皆さんが安定的に通所できるよう日々対応してきました。7月に入り新たに利用者さんが仲間になり、創作活動やアート活動に意欲的に参加されていたと感じています。今年度も岩見沢アール・ブリュットギャラリーにおいて、2か月間あかるいどう単体での展覧会が開催されたことで、多くの利用者さんの作品を展示することができました。利用者さんのモチベーションにもつながり、1作品ごとの制作に対し楽しく取り掛かる事が出来ました。また、「みんなあ〜と」や「障がい者アート展」など沢山の出展ができたことで、作品に対する意欲が高まりました。

## 3. 課題

利用者さんの個々の特性に応じた作業スペースの確保や作業内容、パーテーションなどを使用した環境整備、利用者さんそれぞれが作業しやすい治具、視覚情報の整備が、今後も必要だと感じています。また、アート作品を一人でも多くの方に知っていただく為、事業所や展示会などより利用者さんのもつ感性豊かなアートの魅力を広げられる様、啓発活動により力を入れていく事が大切だと感じています。また、重度高齢化に向け、体力維持の為の活動や、余暇支援の充実に向けて一人ひとりの利用者さんの生活や、人生が豊かになるような支援を目指していけたらと思います。

### ■データ（あかるいどう）

1. 製造販売事業	売上	1 1 3 万円	工賃還元額	1 1 8 万円
2. 下請加工事業	売上	1 1 2 万円	工賃還元額	8 6 万円



## 令和4年度 わくわくどう 事業報告

### 1. 令和4年度事業の総括

令和4年度は、あかるいどう事業所移転に伴う利用者さんの再編が検討され、4月より新たにあかるいどうより2名の利用者さんが異動されて16名でスタートとなりました。

引き続き日常的な感染症予防や対応を行ないながら活動へ取り組み、ご家庭のご理解と協力もいただきながら終える事ができました。

今年度は、外部就労の送迎用に新しく公用車を整備しました。今まで使用していた乗用ハイエースが故障し廃車となったため入れ替えを行なっています。また、それぞれの作業環境に付随する道具や作業着など必要物品を購入し利用者さんが、より良い環境で取り組めるように整備を行ないました。

活動では、そらかぜ食堂は5年間の随意契約として契約を結び3年目の年となりました。食堂運営については原材料や建物使用料・水道光熱費の高騰による影響への対策と対応、安定した集客数と収入確保の対策等に取り組みました。

施設外就労では、今年度より花農家「(株) ジェイク」と業務委託契約を結び新たな仕事へ5名の利用者さんが取り組みました。実働5時間で枯れ花抜きや雑草の除草作業、花の選別、花束作り、出荷準備作業と多様な取り組みを経験する機会となりました。取り組み始めたばかりでしたが、連携先企業の事情により12月で契約終了となっています。

生産活動収入としては様々な影響がありましたが、全体を通して取り組みの成果や働く経験を得る機会にもなり、それぞれの利用者さんのやりがいと達成感を得ながら工賃へと繋がったと感じています。

### 2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型 定員20名 現員16名

### 3. 令和4年度の利用状況

■ わくわくどう全体 (定員20名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	16	16	16	16	16	16	15	14	14	14	14	14	14	64.6%
開所日数	25	23	26	26	25	24	25	24	24	23	22	26	293	
延利用回数	334	329	349	343	344	330	316	289	301	262	273	315	3,785	

平均実利用数13.0名 (小数点第2位以下切り上げ)

定員数を満たしていないため、利用率は低くなっています。

■就労継続支援事業 B 型（定員 20 名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	16	16	16	16	16	16	15	14	14	14	14	14	14	64.6%
開所日数	25	23	26	26	25	24	25	24	24	23	22	26	293	
延利用回数	334	329	349	343	344	330	316	289	301	262	273	315	3,785	

平均実利用数 13.0名（小数点第2位以下切り上げ）

4月より他事業所より2名の利用者さんが加わりましたが、9月に1名、10月に1名退所されています。

4. 取組みの概要

■利用者支援

□事業所内での生産活動

・「そらかぜ食堂」の運営

空知総合振興局、道職員の皆様を中心に食事の提供を行なっています。少しずつ一般のお客様も来店される傾向が見られており、以前よりも市内へ周知度が増してきていると実感しております。道職員の在宅テレワークなどの影響による集客数の減少など安定した収入確保が厳しい状況がありましたが、原材料等の高騰もあり提供価格の見直しを進め、庁舎とも協議を行ない全ての商品の値上げを実施しています。値上げ後も客離れなど客数が落ち込む様子もなく推移していました。

定食メニューも売れ筋の固定化と、お客様からの要望や趣向を取り入れた新メニューの入替え、毎月の「期間限定メニュー」の新商品開発や試作を重ね1人でも沢山の方に利用していただけるように検討を重ねました。

利用者さんの作業面では調理技術や接客技術の向上が見られ、それぞれ役割を担いながら協力して取り組みを進めています。

□施設外就労支援

・(株) ジェイクでの施設外就労作業

働く環境も今までとは違う中で体力の増進にも繋がり体調管理についても考える機会にもなりました。役割を担うことで成長し、やりがいや達成感を感じていましたが、契約終了となり作業の確保が難しい現状になるとモチベーションや体力の低下が見られました。

#### □自主事業・印刷プリント作業

・今年度も沢山の注文を頂き、利用者さんも作業工程を覚え、プリントの位置合わせやプレス作業など、難しかった工程も向上して生産力を高めることができ、売上に結びついています。プリント後の完成した製品の洗濯、乾燥機でのテストなど実証テストを行ない取り扱いの注意点の再検証と商品の質の向上に取り組みました。

#### ■権利擁護

そらかぜ食堂7名、(株)ジェイク5名、館内作業2名と、分かれていることもあり、それぞれの現場で少人数での対応が行なえています。会議での報告などから話合い支援中の声掛け、働きかけなど改めて権利擁護の視点から一つひとつの支援について考え、特性による個別な関わり方、課題を共有するなど情報共有の機会にもなっています。

#### ■苦情解決

今年度の苦情・要望受付は3件でした。親御さんからの苦情が2件あり、親御さんへは電話連絡や面談により説明し対応させて頂いております。相談受付箱に投函された要望が1件あり、本人と面談を行ない対応できる事と出来ない内容について説明し対応させて頂いております。

日々、利用者さんの悩みや不安、相談など聞き取り、話をする機会を設けています。特に利用者さん本人の作業へのスキルアップや、他利用者さんとの関係性についての相談が、日常での会話から聞こえてくる事もある為、その都度対応と見守りを行なっています。訴えることが苦手な利用者さんもあり、日々の表情や行動の変化に配慮し、親御さんとも情報交換を行ないながら、利用者さん自身ご家族が安心して利用できるための環境作りを今後も行ないたいと考えています。

#### ■感染症対策

利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。食堂作業に携わる方は特に体調管理と衛生面に配慮しています。加えて、新型コロナウイルスの対策を重点的に行なっています。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。ご家族とも連絡を取り合い、健康状態の把握や交通機関の利用時間変更や送迎対応なども協力を行ないながら進めました。

実際に体調が悪くなった際は、通所前にご家庭と連絡を取り合い、実施機関の福祉課とも連携し、感染予防に必要な在宅支援での対応を承認しても

らうなどの調整も行ないました。

#### ■災害対応・事故対策

今年度も、感染症を考慮し消防立ち合いの避難訓練は行なえず、職員のみ自主訓練を2回実施しています。同建物を利用されている業者との合同避難訓練は実施できませんでしたが、地震や火災を想定し第一発見時からの行動や通報マニュアルの確認、避難誘導など、実戦想定で基礎的な訓練を実施しています。また実際に避難はしごを使用する想定で2階窓枠への設置方法など避難はしごの使い方も確認しています。様々な想定訓練や防災対策と同時に、作業活動先での避難方法なども職員間で共有する機会としました。

#### ■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

#### ■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

#### ■健康管理

今年度は、新型コロナ感染対策を踏まえながら、8月に実施しています。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	16	16	16	16	16	16
総支給額	479,100	456,500	438,100	512,900	463,300	457,700
平均額	29,944	28,531	27,381	32,056	28,956	28,606

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	16	15	14	14	14	14	183
総支給額	484,600	446,800	826,700	444,200	343,700	1,097,000	6,450,600
平均額	30,288	29,787	59,050	31,729	24,550	78,357	<b>35,249</b>

□事業所全体の平均工賃月額 ¥ 35, 249 / 月 (平均15.3名)

5. 課題

今年度も、コロナウイルス感染症の影響と、様々な物価の高騰が続いており、食堂運営の収入や活動で大きく影響を受けております。今後も段階的に価格を見直し、料金改定を行なうことが必要と感じています。

また施設外就労の活動場が途切れてしまわないように安定させ、利用者さんが、毎日、活動が出来る環境と、役割を担いながら工賃向上にも繋がり、やりがいを感じてもらえる場を維持することが、とても重要であると感じております。

印刷プリント事業の増産体制や、作業の確保も同様に進めながら、利用者さんが楽しみや達成感を感じてもらえるように支援をしていきたいと考えています。

また個々の体力や持久力も個人差があるため、取り組む作業種によっては本人が辛い体験と感じてしまい、諦めに繋がらないように体力の増進も必要と感じています。チャンスがあれば挑戦する、意欲の向上にも結び付けられるような関わりと体力増進に繋がる活動も取り入れた支援もしていきたいと考えています。



## 就労事業の報告

### ■事業班名：そらかぜ食堂

#### 1. 取組みの概要

空知総合振興局5階の食堂の運営も8年目を迎えました。コロナ禍による影響がある中で、感染拡大の予防に徹し、安心安全な環境作りや、来店されるお客様にも感染予防の啓発に取り組みました。また食材価格高騰により、メニューと味付けとボリュームの工夫をしました。今後も、「安くて」「早くて」「美味しい」メニューを安全に衛生的に提供できる様に取り組みを行ないました。



濃厚カレーつけ麺



ゴボウ香る鶏南蛮つけ汁蕎麦



ガリバターパスタ

#### 2. 成果

令和4年度は、ほぼ全てのメニューの値上げをさせて頂き、運営改善に努めました。年間来客数は、17,357人、月平均1,448人、1日平均72.4人の来客がありました。調理、盛付、清掃、接客、衛生管理記録等のスキルも向上しており、日々明るく楽しく作業をすることが出来ています。

#### 3. 課題

変動する食材価格を見据えた、メニューの原価率の計算や仕入発注の調整を行ない、食品ロスの削減、その日に提供する食数の判断、メニューの食材の見直しを行ない、利用者工賃還元額の上乗せに努めて行きたいと考えています。

#### 4. データ

利用者実人数：7名  
営業開店日数：243日  
生産活動売上：1066万円  
工賃還元額：274円



#### 令和4年度年間ランキング

1位～B定食	(33.1%)
2位～A定食	(30.2%)
3位～小鉢	(11.5%)
4位～サラダ	(7.5%)
5位～カツカレー	(4.8%)
6位～カレーライス	(4.2%)
7位～醤油ラーメン	(2.7%)
8位～特盛ざるそば	(2.6%)
9位～げそ丼	(2.0%)
10位～味噌ラーメン	(1.8%)

(%はオーダーに占める割合)

## ■事業班名：施設外就労

### 1. 取組みの概要

(株)ジェイクでの、花栽培における農作業を行ないました。ハウス内の除草作業では、取るべき雑草をよく見てキレイに除去出来る様に精度を上げました。また、花束作りでは出荷する花の茎の長さや太さを揃えて、花や茎部分の折れや葉の状態を1本ずつ確認し、仕上げに包装フィルムで包み完成させ、出荷できる製品作りを行ないました。始めは失敗も多くありましたが、徐々に上達し利用者さん同士で作業を分担しながら効率良く進める事が出来ました。

### 2. 成果

施設外での作業は、利用者さん一人ひとりの経験や自信、やりがいへと繋がっていたように思えます。体力を要する作業でもありましたので、生活習慣も改善し、健康的に過ごす事が出来ていました。

### 3. 課題

通年を通して、安定した活動を行なえる作業と作業量の確保が難しい現状があります。花農家作業の契約終了後より市内の工場や企業、清掃作業やホテル・施設関係のリネンや洗浄作業など、様々な会社へ問い合わせを行ないましたが、良い返事をもらえる所がなく、委託契約が絶えてしまうと利用者さんのモチベーションの低下に繋がってしまう様子が見られます。今後とも働ける場の確保と維持に取り組んでいきたいと思えます。

### 4. データ

利用者実人数：5～6名

施設外就労収入：143万円      工賃還元額      : 136万円

## ■事業班名：自主事業班（印刷製造作業）

### 1. 取組みの概要

印刷製造事業も3年目となり、一人ひとりが担う役割も増えてきています。受注した様々なロゴのデザインを作成し、Tシャツやポロシャツ、トートバック等の商品を作製しました。以前は難しかったプリントロゴの配置合わせも治具を使用して出来るようになり、プレス工程、包装なども効率良く進めることが出来ています。利用者さんが担う役割も固定化してきており、それぞれが、やりがいや達成感を感じながら取り組んでいます。

## 2. 成果

全国の繋がりのある事業所や市内の企業、団体等より沢山の注文を頂き、商品の作製から出荷準備に至るまでの工程において、難しい作業にも挑戦し、利用者さんの新たなスキルの習得が出来ています。



治具を使用した位置合わせ作業



オリジナルのユニフォーム



受注作製した商品

## 3. 課題

夏から秋までイベントや行事など盛んな時期には注文が多くありますが、冬期間は注文も減ってしまう傾向があります。作業確保と収入面からも、安定した製造体制を整えるために、様々なオリジナル商品の考案や増産が必要と考えています。そのためには営業を計画的に進め受注を獲得することと、オリジナル商品の販売を進めて取り組んでいきたいと思ひます。

## 4. データ

生産活動売上：371万円      工賃還元額   ：233万円

## 令和4年度 歩～夢 事業報告

### 1. 令和4年度事業の総括

令和4年度は、新たに4月に1名、翌年の1月に1名の計2名の新規利用者を迎えました。年度の途中では2名の利用者が退所となり、現員は36名となっています。今年度は、他事業所から迎えた方とご家庭の都合により宿泊体験から続けて入居となった方がおり、緊急的なニーズに応えるべく、環境や体制を整えることが急務であると感じた1年でもありました。昨年度までは、コロナウイルス等の社会情勢により多くの方を受け入れることが出来なかった宿泊体験でしたが、今年度は、ご家族からの相談を受けながら、徐々に人数を増やし受け入れを行なっています。また、日中事業所にも協力をもらい、それぞれの利用者のニーズの取りまとめも行ないましたので、今後、多くの方を受け入れていくことが出来るように活用していきたいと思っています。

余暇支援の面では、毎年恒例のバーベキューをたのしいどう駐車場で行ない、野球観戦や遊園地、動物園など6か所ほどの外出企画を提案して、各住居ごとの小旅行を実施しました。全員が集まる行事を実施することは難しかったのですが、個別対応を重点的に実施し、要望により遠方への買い物や温泉など、感染対策に気を付けながら一人ひとりが楽しめる機会が増えるように努めました。

今年度は、数名の方が人生の節目となる還暦や二十歳を迎えられました。還暦の方は、赤いちゃんちゃんこを身に着けて同じ住居の皆さんと記念撮影をしたり、おめかしをしてレストランで食事をするなど、それぞれの希望に沿ってお祝いをさせていただきました。また、二十歳を迎えた方は、岩見沢市で開催された「二十歳の集い」へ晴れ着姿で参加されました。様々な制限に苦しんだ日もありましたが、このように皆さんの晴れの日を共に迎え、喜びを共有できたことを嬉しく感じています。



ちゃんちゃんこで記念撮影



還暦の記念にテラスでお食事



晴れ着で二十歳の集い

## 2. 実施事業

共同生活援助事業所（合計定員40名）※宿泊体験4名含む

春が来た荘	定員5名	現員5名
夏色荘	定員5名	現員4名（宿泊体験 1名）
秋いろいろ荘	定員5名	現員4名（宿泊体験 1名）
ハラダハイツ	定員2名	現員2名
コーポハラダ	定員2名	現員2名
桜なごみ荘	定員4名	現員4名
もみじ色づき荘	定員5名	現員5名
ふきのとう	定員3名	現員2名（宿泊体験 1名）
みないい荘	定員4名	現員3名（宿泊体験 1名）
虹のかけはし荘	定員5名	現員5名

春が来た荘



夏色荘

秋いろいろ荘



みないい荘

ハラダハイツ



虹のかけはし荘

コーポハラダ



もみじ色づき荘

桜なごみ荘

ふきのとう



### 3. 令和4年度の利用状況

※定員40名（宿泊体験5名：4月～3月）※年間365日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	37	38	38	38	37	37	38	37	37	37	39	38	
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用回数	1,063	1,082	1,097	1,123	1,075	1,081	1,085	1,036	1,040	1,055	1,000	1,107	12,844

※平均実利用者数 35.2名（小数点第2位以下切り上げ）

※令和4年4月から令和5年3月までに入居された方は男性2名でした。

令和4年4月から令和5年3月まで退所された方は男性2名でした。

※これまで行なっていた帰省の自粛を、感染状況を見ながら徐々に緩和していきます。遠方の方も、交通機関を利用して帰省し、無事に戻られています。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	1	1	1	0	0	1	2	2	2	4	2	
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用回数	0	4	2	3	0	0	3	3	5	19	40	10	89

宿泊体験の利用については、感染症状況を見ながら受け入れを行なってきました。年明けからは、ご家族からの相談を受け、体験利用を開始される方もありました。ご家庭の事情による緊急的な受け入れにも対応しています。

### 4. 取組みの概要

#### ■利用者支援

今年度は、一人ひとりの生活の基盤を見直すことに重きを置いています。個別の所持品や衣類、家具などを見直し、それぞれが必要としている物を洗い出して、希望に沿ったものを揃えています。また、同居利用者との関係性を良好に保つために調理を含めた食事会を定期的で開催したり、老人ホームへ入居されているご家族との面会の調整など、個々の要望や相談への支援・対応を早めていく努力



をし、利用者の皆さんとコミュニケーションを図りながら、個別の課題解決に取り組みました。

一般企業で働いている利用者さんから転職の相談を受け、希望の職種へ転職が出来るように支援を行なっています。本人と現在の職場での勤め方を振り返り、次のステップへ進むために必要な心構えなど、時間をかけて協議しながら対応を進めました。

#### ■権利擁護

今年度は、利用者さんへの接し方、関わり方の自己点検チェックシートを常勤職員とパート職員の皆さんに配布して、それぞれが自身の支援についての自己点検を行ないました。日常における利用者さんへの支援の在り方を振り返る良い機会となりました。また、リモートによる職員会議の場で権利擁護についての内部研修を実施しています。

#### ■苦情解決委員会

今年度の苦情・要望が1件となっています。

利用者本人の要望と支援が適切にマッチしなかった事や対応がスムーズに行かなかった事で不満が募り、2名の方が退所となりました。歩～夢では、職員が常駐して支援する住居と、巡回による支援の住居がありますが、巡回のみでは要望に対応しきれず、不満に繋がった場面もあったのではないかと思います。職員同士の円滑なコミュニケーションと正確な引継ぎ、レスポンスを速めることの重要性をひしひしと感じました。

#### ■感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策も3年目を迎え、マスク着用、うがい、手洗い、消毒の声かけや住居の換気等の支援を継続して取り組んできました。感染が拡大する中、歩～夢の利用者にも感染者が2名出ました。幸いにもクラスターには発展せず、軽症で完治に至っています。感染対策に慣れが生じる危険もあった為、定期的に感染予防の強化を図りながら、住居ごとの対策に取り組みました。

## ■災害対応・事故対応

防火訓練では、各住居にて避難訓練を行ないました。火事の発見からスタートし、大声で皆に知らせる練習から、外の安全な場所までの避難を行なっています。訓練の前後には避難するとき気を付ける点を説明しました。

災害対策の避難訓練では、深夜の地震を想定した訓練を行なっています。実際にベッド入ってもらい、就寝しているところから外へ避難するところまでの訓練を行なっています。訓練終了後には話し合いの時間を設け、地震が起きた時の初動や体のどこを守ったら良いのかを伝えています。



火災発見！



避難時の注意点を  
考えよう

### 火災・地震想定避難訓練の様子



頭を守る！



気を付けながら  
避難！ 避難！



安全な場所まで

■年間行事

令和4年度	内 容
4月～令和5年3月	各住居ごとでの誕生日会を実施
5月3日	GW焼肉（たのしいどう駐車場）
8月3日～	ルスツリゾート（桜・ハイツ・みな・ふき）
	日本ハムファイターズ野球観戦（夏色）
	えこりん村（春・秋）
10月21日	旭山動物園（もみじ）
9月14日	火災想定避難訓練（町中エリア）
9月16日	火災想定避難訓練（南町エリア）
9月23日	各ホームでジンギスカン焼肉会
12月24日	クリスマスメニューで夕食
12月31日	年越し食事会（とんでん）
令和5年1月1日	初詣（岩見沢神社）
3月22日	地震災害避難訓練（春・秋・ハイツ）
3月30日	地震災害避難訓練（桜・もみ・ふき・コーポ）
3月31日	地震災害避難訓練（夏・みないい・虹）

GW 歩～夢BBQ



みんなで夕食作り

年越し食事会！

岩見沢神社へ初詣





## 各住居ごとの小旅行



日本ハムファイターズ戦



ルスツリゾート



えこりん村



旭山動物園

### ■ 諸会議

- ・法人全体会議・・リモートを利用し月1回実施。
- ・世話人会議・・月1回実施を目指しましたが、感染者拡大により開催が難しく、引継ぎによる情報の周知を行ないました。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・企業就労担当会議・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有して、支援の方向性を話し合っています。必要に応じて企業と連絡を取り合っています。
- ・権利擁護担当者会議・・感染症対策にて担当者会議を中止しています。毎月の報告書を確認し、参考資料等があれば随時配布して全員で情報の共有を行なっています。

## ■健康管理

今年度、定例の健康診断は感染状況を確認しながら8月に実施し、利用者の再検査等の対応を行なっています。健康診断により体の不調が見つかった方が数名おり、自身で体調不良が訴えられない方もいる中、定期検診の重要性を再確認しました。また、職員の年2回の健康診断も実施し、一層の健康管理に努めています。

企業就労の方も、企業先の検診結果を把握しています。再検診が必要な方もいましたので、委託医と相談しながら、再検査を行なっています。

## ■支援記録

各住居の支援日誌や日中事業所の連絡帳、業務日誌などは利用者の日々の体調や心の変化を共有するツールでもあることから、確実に記録を残し、正確に引き継ぎを行なうように留意しました。また、日中活動との連携の為、連絡帳を用いて生活の様子や体調の変化、帰省等の予定などの記載を行なっています。

ご家庭と連絡・調整は、電話やメール・連絡帳を利用し、日々の様子の報告や相談をさせて頂きました。ご家庭からも様々な返答が記載されており、通院や次回帰省の日程などを職員間で周知しました。

## ■施設整備状況

今年度は、昨年度の積雪で半壊した「虹のかけはし荘」の物置の建て替え工事を行なっています。また、同じく前年に落雪により壁面をへこませてしまった「春が来た荘」隣家物置の壁面の修理と共に、冬前に隣家の許可を頂いて、壁面をコンパネで養生しています。今後、毎年養生させていただけるようお願いしています。

ニーズの高まりがある女性のグループホーム用に物件を探し、新規住居の開設へ向けて取り組みを開始しています。

## 令和4年度 地域生活支援事業 楽らく 事業報告

### 1. 令和4年度事業の総括

岩見沢市より指定を受けて実施している日中一時支援事業「楽らく」は、三笠市、栗山町、南幌町の4市町村と委託契約をしています。今年度も、感染状況に応じて外出のメニューの内容や、受け入れ人数を制限させて頂きながら、少しでも余暇の充実や楽しみの提供を出来るよう心掛けています。館内で実施できるメニューでは、季節のイベントや食材を使用したお菓子作りなどを中心に実施しています。



ハイジ牧場での様子

### 2. 実施事業

□日中一時支援事業定員20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

### 3. 令和4年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	21	19	20	19	19	19	21	20	17	18	15	19	
延利用回数	64	53	53	60	36	46	62	48	41	44	32	51	590

土曜午後の時間を活用した余暇支援を49回、日曜日に1回年間で実施しました。

### 4. 取組みの概要

今年度は、5月から11月までの期間に、月1回以上の外出メニューを取り入れるようメニュー作りを行いました。果物狩りや動物と触れ合える公園、季節の花を観に行く等、気分転換を出来るよう心掛けています。お菓子作りや創作メニューも、季節の材料や旬の食材を使用し、作りながらも楽しめる内容を考え、実施しています。土曜日の短い時間の中ですが、利用者さんが日頃出来ないことや実現したい事を少しでも余暇で取り組み、息抜きや余暇の充実、自分へのご褒美時間として、少しでも楽しんで頂けるよう取り組んでいます。



いちご狩りの様子



## 5. 成果

室内のメニューだけではなく、外へ出掛けられることで、たくさんの経験やふれあいが出来、体も心も楽しめたと感じています。室内メニューは、各事業所内で実施していましたが、外出先では、他の事業所のメンバーとも顔を合わせることが出来、皆と嬉しそうに会話をしていました。久々に会う仲間と顔合わせることが出来、より一層楽しむ余暇時間となれたと感じています。お菓子作りや創作では、自分で作ったものが完成する喜び、楽しさも実感できたと感じています。



ぶどう狩りの様子

## 6. 課題

感染予防の観点から、外出メニューは、室内ではない内容を選び、提供しています。利用者さんに人気のカラオケやボウリングは、今年度実施することが出来ませんでした。来年度は、ぜひ実施できたらと考えております。また、時間に限りがあるため、外出出来る地域も限定されてしまいますが、少しでも多く、初ての企画を取り入れ、皆で楽しめたらと考えております。



お菓子作りの様子